

# 平成28年度 重点研究 年間計画

## 1. 研究主題

### 達成感、充実感のある体育科の授業を目指して

～ 1時間ごとのレベルアップを意識した授業づくり ～

## 2. 研究主題設定の理由

2年間、本校児童の実態をふまえ、体育科の重点研究をすすめてきた。前年度のサブテーマは、『～「できた」「やった」のあふれる授業づくり～』とし、個々の児童が目的意識をもって意欲的に運動に取り組み、また運動技能の向上を意識して体育の授業に臨む様子が見られるようになった。

授業研究としては、体育科での「学び合い」や「場の設定」、「学習カードの活用」等を中心に授業実践と研究を積み重ね、一定の成果を上げることができた。さらに、運動委員会での取り組み等も功を奏し、体育が好きな児童が増加し、課題達成や記録向上への意欲が顕著に見られるようになった。このような成果を受け、本年度の重点研究は体育科の研究3年目とし、さらに深みのある「達成感、充実感のある体育科の授業」を目指すことにより、児童が運動の特性を感じ、より運動することが楽しいと感じる児童に育てていきたい。運動が得意な児童も苦手な児童も、一人一人が自分のめあてをもってレベルアップをめざし、一人でも多くの児童が運動好きになるような手立てを工夫することが、児童の体力アップにもつながると考える。

こうした目標達成のためには、教師の授業づくりが大きなポイントになる。教師が運動の特性を知り、その運動のもつ楽しさを分析、実践していくことが、運動の楽しさやできる、わかる喜び、健康で安全についての正しい知識や行動、運動能力の向上につながっていくであろう。こうした日常の実践を積み重ねることが、より豊かに、そして自主的に運動に関わる児童に成長し、研究の主題に迫っていけると考えて設定した。

## 3. 研究主題に迫るために

### 達成感、充実感のある体育科の授業を目指して

#### ◎児童 **運動の特性を体感して、運動の楽しさを知る**

自分のめあてをつかむ → できる・わかる小体験を積み重ねる → めあてを達成する

→ **【達成感、充実感の実感】** → **運動が好きになる** → **体力アップ!**

#### ◎教師 **楽しさの分析、実践**

児童にめあてを伝える、共有する → 楽しさを体感できるような**指導の工夫**

→ 当該運動・単元における「できる・わかる」内容の確認 → 必要かつ十分な運動量の確保

[安全面への十分な配慮、予見]

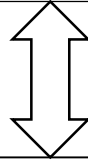
(関連一食育指導、運動委員会等との連携、学校保健委員会等での取り組み)

※上記・・・児童の運動好き&体力アップへのつながりが期待できる。

#### 4. 研究構造図

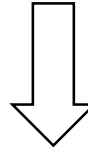
##### 中期学校教育目標との関連

規則正しい生活をもとに、食の大切さと健康の大切さを理解し、進んで体力を高められるようにする。



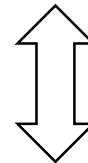
##### 体育科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。



##### めざす児童の姿

- 進んで体を動かせる、運動好きな子
- 友達とのかかわり合いを大切にし、認め合い、学び合える子
- 規則正しく安全に生活できる子



学校教育目標の実現に向けて

- ◎ 自ら課題を見つけ、自ら解決する子を育てます。(知)
- ◎ 礼儀や約束を重んじ、友達を大切にする子を育てます。(徳)
- ◎ 自他の生命を大切にし、健やかな心と体をつくる子を育てます。(体)
- ◎ 地域の人と積極的にかかわり、社会の一員としての自覚をもつ子を育てます。(公)
- ◎ 身近な自然環境にふれ、社会や自然への関心を広げる子を育てる。(開)

(知)	・学習の見通しをもち、体育的活動を通して運動能力の向上を図る。
	・自らの運動技能をふりかえり、苦手分野の克服と得意分野のスキルアップを目指すことができる。
(徳)	・友達とのかかわり合いを大切に、協力、教え合い、学び合いが十分にできるようにする。
(体)	・自他の生命の大切さを実感し、それらを理解したり表現したりする力を身につける。
	・安全で健康な日常生活をおくれるような身体能力の定着を図る。
(公)	・地域で積極的に外に出て遊んだり、かかわりを持ったりして、幅広い年齢層の人々と豊かなかかわりのできるような社会性を養う。
(開)	・地域の自然や公園等で積極的に体を動かし、体力の向上を図る。

## 5. 研究仮説

子どもたちがすすんで運動に取り組み、また、運動技能を高めるために、努力したり協力したりする経験を多く積み重ねることが、じょうぶな体と強い心の育成につながると考える。そのために、児童がペアやグループの中でお互いに教え合い、1時間ごとのめあてを明確にもって学習をすすめることで、より豊かに運動にかかわり、心身ともに健康な児童を育てていきたい。

☆特に今年度は、「児童相互の学び合い場面を多く取り入れる」「多様な学習形態の工夫」等を意識して取り組む。

## 6. 研究内容

- 全体の研究仮説に基づいて、低中高各部会ごとに研究を進めていく。  
(5組、音楽、家庭科、算数については全体会形式とする。)
- 各部会でテーマに沿った単元を設定して、実践研究が児童に還元していくようにする。
- 児童が主体的に学習に取り組めるような場の設定、教材の工夫(学習カード、視聴覚教材等)  
安全に配慮した授業作り
- 研究授業  
全員が年1回の研究授業を行う。5組、音楽、家庭科、算数担当も、できるだけ研究主題に沿った内容で担当教科の授業を行う。

## 7. 研究組織 低中高各部会に分かれて研究会を進める。

指導案原型作成(中村) 別紙参照

### ○役割分担

全体運営	塩沢	5組専科担当	對馬	指導案関係集約	中村
低学年部会	山本	講師依頼状作成発送	林	綴じ込み等含	
中学年部会	佐埜	講師礼状作成発送	林	考察まとめ	塩沢
高学年部会	中村	指導案表紙作成 講師連絡指導案発送	内藤	校内案内表示 作成掲示	梨本

